

不燃木材の2拠点生産軌道に

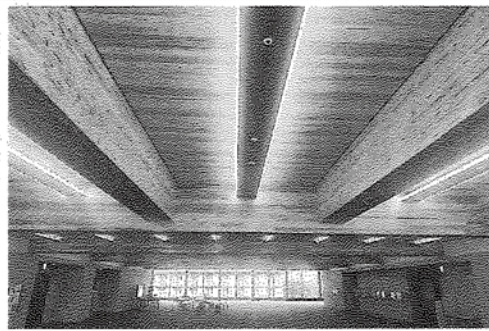
大ロット・西日本納入広がる

細田木材工業

細田木材工業(東京都、奥村永徳社長)が2023年に愛媛県で不燃木材の工場を取得してから2年半が経過し、東西2拠点生産が軌道に乗ってきた。東京都内の本社工場のみでは対応が困難だった大ロット案件への納入実績が広がり、四国を中心とした西日本での受注も着実に伸びてきた。同社は6年後の創業100周年に向けて不燃木材事業を次の柱の一つと位置付けており、今後もしェア拡大に一層力を入れていく方針だ。

同社は17年6月から、同社の不燃木材の生産能力は約3倍に増加。愛媛工場は順調に立ち上がり、年4月にはサカワ(愛媛県東温市、坂和寿忠社長)の工場を引き継ぎ、東西2拠点での生産、販売へ事業を拡大した。2工場体制とな

ったことで、同社の不燃木材の生産能力は約3倍に増加。愛媛工場は順調に立ち上がり、年4月にはサカワ(愛媛県東温市、坂和寿忠社長)の工場を引き継ぎ、東西2拠点での生産、販売へ事業を拡大した。2工場体制とな



細田木材工業の不燃木材6,600枚と杉羽目板4,900枚が使用された第一生命京橋キノテラス

納品としては過去最大の実績となった。さらに、無処理の杉羽目板4,900枚も併せて納品したことで、羽目板の納入実績としても過去最大となった。

同物件は木造とS造のハイブリッド構造で、木質無柱空間を構成する梁材の表面仕上げ材に、同社の低吸湿

性不燃木材「エフネンノン白華」が採用された。3階から10階までは準不燃、11、12階には不燃の杉羽目板が使用され、不燃・準不燃合わせて6,600枚を納品した。

材料準備から製品化までは1年半がかりで、原材料となる杉製材を北関東の製材工場から調達し、愛媛工場で含浸・乾燥を、本社工場で加工・塗装を行った。完成した製品は品質保持のため空調設備を備えた倉庫で保管。梱包まで自社一貫で行うことで品質管理を徹底した。「今回の納品を通じて、当社の不燃木材に関するノウハウと品質管理、加工技術、白華現象の少ない「エフネンノン白華」の品質、最大の需要地である都心での営業力を示すことができた」(奥村社長)。

愛媛工場は同社初の関東外の事業拠点で、その稼働を機に、西日本での新たな販路開拓にも取り組んできた。その結果、西日本での認知も高まり、工場のある四国で庁舎等への採用実績が伸びた。中国地方でも納入事例が出始め、九州でも大ロット案件の見積もりが増えるなど、西日本での販路開拓が着実に進んでいる。